

豊橋市民病院 研修医 2年目

私は新城市民病院で生まれ、新城育ちました。2000年代の医療崩壊を実に体験し、市民病院の診療科が次々と閉鎖されていく姿を目の当たりにし、幼いながら危機感を覚えたのが非常に懐かしく思います。その後、総合診療科が設立され、患者さんが市民病院に戻って来ているということを目に挟み、現在の新城市民病院がどのような医療を行っているか非常に興味があり、この研修を待ち遠しく思っていました。

総合診療科の初診外来では多くの患者さんの診察に当たらせていただき、その中で普段我々が従事している救急外来との大きな違いを感じました。主訴と関係のない身体徴候や検査結果の異常まで徹底的に突き詰め、鑑別を絞り込み、診断が付いても治療が必要か否かを判断していく。まさに医学の原点とも言えるそのプロセスを徹底して行っている総合診療科の先生方に感銘を受けました。救急外来という特性上、致命的となる疾患が否定できれば多少なりとも分からないことがあってもよい、そのような観念がどこか心の底にあったということを実感させられました。

カンファレンスは毎日開催され、外来患者さんは全員フィードバックすることにも驚きを感じました。指導医の先生と後期研修医の先生の垣根がなく、活発に意見交換がなされておりまさに理想の医療チームと言えました。我々初期研修医に対しても毎日ご指導を頂き、日々新しい知識や技術を取り入れ成長することができたように思います。

また、患者さんが受診するに至った背景、家庭環境や居住環境、介護保険の申請など、「病气」以外のことに対しても、まさに総合診療的にアプローチされておりました。他職種を交えたカンファレンスも定期的にも実施されており、患者さんが自宅でどのように暮らしているのか想像力を膨らませながら医療を提供する必要性を実感しました。介護福祉施設の訪問や訪問看護・リハビリの体験もさせていただき、患者さんが元気な時、どのように生活を営んでいるかを想像するための一助になりました。超高齢社会、多死社会が今後さらに進行していくことが予想される中、限られた医療資源の中で最良の医療を提供するためには、こうした全人的なアプローチのスキルが医療に携わるもの全員に必須となってくるということを実感しました。

一方で、先生方は常に研鑽を積み、最新の医学的知識を取り入れられていたのは衝撃でした。勉強会は毎朝開催され、EBMの権威名郷先生を招いてのEBM勉強会も非常に刺激になりました。移り変わりの激しい医療の世界では、圧倒的かつ最新の知識に裏打ちされてこそ最良の医療が提供できるのだということを実感することができました。

4週間という研修はあっという間でしたが、自分の故郷で医療行為に従事することができ、大変実りあるものとなりました。総合診療科の先生方をはじめ、関わって頂いたスタッフの皆様全員にこの場を借りて深く感謝いたします。ありがとうございました。